

Shakespeare Journal 論文・記事執筆要領

2013年10月10日一部改訂
2015年4月25日一部改訂
2017年4月4日一部改訂
2018年4月21日一部改訂
2019年4月1日一部改訂
2020年4月1日改訂
2021年3月27日一部改訂

投稿論文は日本語論文とし、横書きで40字×25行とし、論文本体で6,000～12,000字程度であること。注は字数に含めない。引用の書き方は原則として、MHRAスタイルに準ずる（詳しい書式は<http://www.mhra.org.uk/style>でダウンロード可能）。

1. 全体の書式上の注意

- ・原稿で使用するフォントは、日本語ではMS明朝、英語ではCentury、ポイントはいずれも10.5とする。
- ・半角丸括弧を使用する場合には、前後に半角スペースを置くが、括弧の前後に角括弧や句読点がある場合はこの限りではない。
- ・作品名は、日本語訳を2重括弧（『 』）で表記し、引用文献に記載されていない場合、初出時には半角丸括弧で括って原綴りを挿入する。作品名の日本語訳は、原則として、高橋康也ほか編、『研究社シェイクスピア辞典』（研究社、2000年）の表記に準ずる。
- ・論文は節に分け、各節に番号と見出しを付けることが望ましい。節番号と見出しは中央揃えではなく、左揃えで書く。
- ・論文や記事の副題を表すダッシュは全角2文字分用い、副題の前に付ける。

2. 数字表記の統一について

(1) 数詞は、原則としてアラビア数字（半角）で表記する。小見出しの番号も、これに含まれる。

（例）「第2幕第3場」、「第2話」、「第3部」、「1623年」、「20年間」、「天保12年」、「4月22日」、「17世紀」、「12名の団員」、「100人の騎士」、「14歳」、「双子の兄弟の1人」、「1ページ目」、「第3の劇場」、「第2版」、「6ポンド」、「悲劇6本を上演」、「2代目レノックス公」、「4分の3」、「1行10音節」、「6行を1連とし、全199連1194行からなる物語詩」、「5つの母音」

(2) ただし、次の場合は漢数字を用いる。

① 固有名詞（人名、地名）

（例）「ヘンリー五世」、「ルイ十一世」、「『ヘンリー六世』」（例：『ヘンリー六世』・第2部）、「港区六本木」、「中央区六本木」

② 成句、熟語、あるいは成句・熟語の一部として定着しているもの

（例）「一人娘」、「二人兄弟」、「二本足」、「三人姉妹」、「裕福な一家」、「一人前」、「一人芝居」、「二大劇団」、「四大元素」、「同一人物」、「二人三脚」、「二人羽織」、「三人称」、「第三者」、「三位一体」、「人っ子一人いない」、「一人（独り）暮し」、「数千行」（例：3万数千行に及ぶ大作）、「五十歩百歩」、「百代の過客」、「百聞は一見に如かず」、「五十肩」、「六十路」、「四字熟語」（例：四字熟語は、漢字4字で構成される）、「十二夜」（例：十二夜とは、12日目の十二日節の晩）、「四つ折本」（例：20篇の四つ折本）、「二つ折本」（例：第1・二つ折本）、「五月

柱」、「二行連句」（例：二行連句は、押韻する同数の音節からなる2行）、「第二次世界大戦」、「歌詞の一部」（cf.『ヘンリー四世』の第1部）、「一部始終」、「三部作」（例：『ヘンリー六世』三部作）

- (3) アラビア数字にすべきか漢数字にすべきかの線引きが難しい事例については、執筆者の判断に委ねる。

3. 人名表記について

- (1) 文学作品の登場人物名はカタカナで表記する。原綴りは不要。
- (2) 実在人物の人名もカタカナで表記する。初出箇所のみフル・ネーム表記する。脚注に記載のないものの場合のみ、「リチャード・フッカー (Richard Hooker)」のように半角丸括弧で括って原綴りを初出時に挿入する。

4. 引用について

- (1) 3行以上の長い引用の場合には、前後に1行ずつ空行を取る。左インデントは全角3文字分取る。
- (2) 2行以内の短い引用は原則として地の文に挿入する。読みやすさを考えて日本語に直すことが望ましい。その際、「」で括った引用文中に元々「」がある場合には、『』に変更する。原文の併記が必要な場合は、半角括弧に括って日本語引用文のあと（「」内に）に記載する。
- (3) 地の文のなかに原文のみを引用する場合は、single quotation marks を用いる。
- (4) 戯曲の引用の幕・場・行は、(II. 2. 125-26) のように、半角丸括弧で括って幕は大文字のローマ数字、場・行は半角アラビア数字で表記する。その際、百の位が変わらない場合は、省略すること。また、幕・場・行の間は半角1スペース分空ける。
- (5) 長い引用の直後にその引用について論じる場合には、字下げして段落を変えない。
- (6) 引用を省略する場合には、ピリオドを3つうち、角括弧 [] で囲う ([...])。さらに、戯曲の引用の頭書き (speech prefix) は、小型英大文字 (small capitals) で書く。

RODERIGO What, ho! Brabantio, Signior Brabantio, ho!
IAGO Awake! What, ho, Brabantio! Thieves, thieves, thieves!
[...]

Thieves, thieves!

Enter Brabantio at a window above.

BRABANTIO What is the reason of this terrible summons?
What is the matter there?

(I. 1. 79-80, 82-83)

- (7) 文中に入れ込む引用文の中で、原文の行の区切りは、英文は|、日本語は/で示す。

5. 注

注は脚注とする。また、総ての書誌情報を脚注で表記する（引用文献一覧は作成しない）。詳しく

い書式はMHRAを参照 (<http://www.mhra.org.uk/style>でダウンロード可能)。

例

研究書を最初に引用する場合

Martin Butler, *Theatre and Crisis 1632-1642* (Cambridge: Cambridge University Press, 1984), p. 123.
E. K. Chambers, *The Elizabethan Stage*, 4 vols (Oxford: Clarendon Press, 1923; repr. 1974), I, p. 123.
安西徹雄、『彼方からの声——演劇・祭祀・宇宙』、筑摩書房、2004年、11頁。
スティーヴン・オーゲル、『性を装う——シェイクスピア・異性装・ジェンダー』、岩崎宗治・橋本恵訳、名古屋大学出版会、1999年。

雑誌論文を最初に引用する場合

Stephen Greenblatt, 'Sidney's *Arcadia* and the Mixed Mode', *Studies in Philology*, 70.3 (1973), 269-78 (p. 270).
中野春夫、「四百年後、いま『リチャード三世』が面白い」、『悲劇喜劇』65巻11号(2012年11月号)、36-37(36頁)。

研究機関の紀要論文の場合(発行機関を明記する)

冬木ひろみ、「『物語』と終わりの感覚——『冬物語』一考察」、『演劇研究』(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)23号(1999年)、25-34(30頁)。

論文集所収の論文を最初に引用する場合

Marie Therese Jones-Davies, 'Shakespeare and the Myth of Hercules', in *Reclamations of Shakespeare*, ed. by A. J. Hoenselaars, DQR Studies in Literature 15 (Amsterdam: Rodopi, 1994), pp. 57-74.
Martin Elsky, 'Words, Things, and Names: Jonson's Poetry and Philosophical Grammar', in *Classic and Cavalier: Essays on Jonson and the Sons of Ben*, ed. by Claude J. Summers and Ted-Larry Pebworth (Pittsburgh: University of Pittsburgh Press, 1982), pp. 31-55 (p. 41).
篠崎実、「イアーゴの呪縛——『オセロー』における反復の詩学と女性抑圧」、日本シェイクスピア協会編、『シェイクスピアと演劇文化』、研究社、2012年、25-42(30頁)。

書名の中の作品名

Approaches to Teaching Voltaire's 'Candide', ed. by R. Waldinger (New York: Modern Language Association of America, 1987), pp. 3, 10, 27.

二度目以降の引用

Greenblatt, p. 272.

同じ著者による二つ以上の出典を用いる場合

Greenblatt, *Renaissance Self-Fashioning*, p. 112.

Ibid や *op. cit.* は用いない。